

「就任にあたって」

宮城県生協連専務理事 野崎 和夫



6月24日の第41回通常総会（2010年度）及びその後の第1回理事会で、県生協連の専務理事に選任されました。若輩者ですが、皆さんのご指導ご鞭撻をよろしく申し上げます。

宮城県生協連は、2010年6月、創立40周年を迎えました。

1970年（昭和45年）6月28日、宮城県学校生活協同組合、宮城県民生活協同組合、東北大学消費生活協同組合、仙台市民生活協同組合、気仙沼船員生活協同組合の5生協が集まり、宮城県消費生活協同組合連合会の設立総会が開かれ、宮城県生協連はスタートしました。

創立当時の事業概要の記録は残っていませんが、1973年では、8会員生協、総事業高126億円、組合員数7万5千人の記録が残っています。以来、県内の生協運動は、大きく成長・発展しました。直近の2009年度では、会員生協数16、会員生協の総事業高1,141億円、組合員数105万8千人となっています。

宮城県内の生協の果たす社会的な役割について、自覚し、活動を進めていく必要があると強く感じています。

国連は、2009年12月18日に、2012年を「国際協同組合年」とすることを決定し、各国政府、協同組合関係組織等に対して、

この国際年を契機に協同組合を推進し、社会経済開発に対する貢献に関する認知度を高める取り組みを求めました。

協同組合に期待する人々は、国際協同組合年を契機に、協同組合が地方・地域の活性化、環境保全や福祉の向上、自給率向上や食の安全確保などの課題に対して、その力を発揮して社会貢献するとともに、協同組合運動が発展することを望んでいます。

少しでも期待にこたえられるよう、努力していきたいと考えています。

● 宮城県生協連第41回通常総会（2010年度）第2回理事会報告

第2回理事会は、7月20日（火）午後1時30分より、フォレスト仙台5階会議室において開催され、理事14人、監事2人、顧問1人、オブザーバー1人が出席しました。

議長に齋藤昭子会長理事を選出し、議事に入りました。

【議決事項】

1. 印鑑管理規程改訂の件について、野崎和夫専務理事より、印鑑管理規程の第8条と第9条を実態にあわせた条文に変更することの提案があり、全員異議なく承認可決しました。

【報告事項】

1. 第41回通常総会について、野崎和夫専務理事より、開催報告があり、全員異議なく報告を了承しました。4会員生協から実践報告について発言があり内容がよかったことや、次年度は2011年6月23日（木）開催予定であることが報告されました。
2. 2010年度県連組合員集会実行委員会報告、灯油関連報告、家計モニター活動報告、消費税引き上げをやめさせる活動報告について、加藤房子常務理事より報告がありました。集会決議文案について情勢等を反映させ、事務局で訂正し

次回理事会に再度提案することとしました。齋藤昭子会長理事より、組合員集会のなかで実施する内橋克人さんを講師とする講演会については「40周年記念講演会」なので、会員生協のみならず、協同組合こんわ会・各政党の議員・県内オピニオンリーダー等にご案内することの報告があり、全員異議なく報告を了承しました。

3. 消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ活動報告、平和・憲法9条関連報告について、野崎和夫専務理事より報告がありました。消費者庁加藤さゆり参事官を講師にむかえて消費者懇談会発足記念公学習会を実施したこと、及び「被爆ピアノチャリティーコンサート in 仙台・尚絅学院」支援への協力依頼の報告があり、全員異議なく報告を了承しました。
4. みやぎ食料自給率向上クラブ報告について、加藤房子常務理事より報告がありました。関連して鷺尾衛理事より、米の消費が落ち込む中、22年産米が豊作になると、米の価格下落が懸念されるとの報告がありました。
5. みやぎ食の安全安心推進会

議報告について、入間田範子常務理事より報告がありました。「食の安全安心の確保に関する基本計画（改訂）」について、県民総参加運動のあり方検討についてなど報告があり、全員異議なく報告を了承しました。

6. 映画「お菓子放浪記」製作と上映を支える宮城県民の会への参加報告、県連情報誌「COOP Calendar」の新聞記事転載利用許諾契約報告、日生協「生協2020年ビジョン・20の論点」報告について、野崎和夫専務理事より報告がありました。「生協の2020年ビジョン・20の論点整理・資料集」に基づき説明があり、全国の地域生協のありたい姿を共通認識にするために、論議を深め多くの意見を出すことが確認されました。



映画「お菓子放浪記」製作委員会パンフレット

宮城県生協連の活動

● 宮城県総合防災訓練参加報告

9月1日(水)宮城県と栗原市が主催した総合防災訓練が、栗原市栗駒「サン・スポーツランド栗駒」を主会場にして実施されました。栗原市は、2008年6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」において甚大な被害をうけ、復旧・復興にむけて全力をあげて取り組んでいます。

この訓練は、大規模地震災害の発生に備え、栗原市が経験した災害発生から復旧に至るまでの対策等を教訓として伝えるとともに、防災関係機関・各種団体及び地域住民が一体となり、迅速で的確な災害応急活動が実

施できる相互の協力体制の確立をするためのものでした。当日は、30の訓練種目が設定されていました。

宮城県生協連からは、みやぎ生協の共同購入トラック2台と人員4人で、救援物資等輸送訓練に参加しました。

宮城県沖地震の発生が確実に見込まれるなか、民間、市町村、県、自衛隊等が、それに備えて相互協力の体制を確立しておくことが、防災上大切だと実感した訓練でした。



救援物資等輸送訓練



災害復旧支援車両(みやぎ生協)

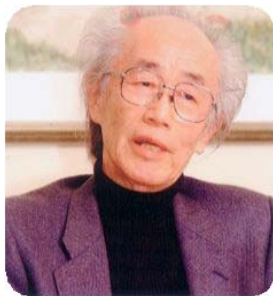
宮城県生協連
40th

～宮城県生協連創立40周年記念～

第31回「消費者の暮らしと権利を守る宮城県生協組合員集会」

講師

内橋 克人さん
(経済評論家)



共生経済が始まる
市場原理至上主義を超えて

創立40周年記念講演

*日 時/2010年 9月28日(火)10:00~12:00

※集会後アピール行進を行います。

*会 場/東京エレクトロンホール宮城・大ホール(旧県民会館)

*参加予定組合員/1,000人

[集会決議(案)]

- ① 消費税率引き上げに反対し、食料品は非課税にすることを求めます。
- ② だれもが安心して暮らせる社会保障制度を求めます。
- ③ 食品の安全性確保と食料自給率の向上を求めます。
- ④ 灯油の適正価格と安定供給を求めます。
- ⑤ 地方消費者行政の充実強化を求めます。
- ⑥ 憲法9条を世界の宝として守り、核兵器廃絶を求めます。

● 平成 22 年度第 1 回仙台市消費生活審議会報告

7月13日(火)仙台市役所本庁舎2階第5委員会室において、「平成22年度第1回仙台市消費生活審議会」が、委員8人の参加で開催されました。宮城県生協連からは、加藤房子常務理事が委員として参加しています。

仙台市市民局の庄司克茂次長の挨拶の後、議事に入りました。担当者から、平成21年度消費生活相談の実績について、消費生活相談の概要として、相談件数は9,193件で、前年度104.0%(352件増加)、苦情相談件数は8,357件で、前年度比100.4%(34件増加)、多重債務相談や

内容が複雑・困難な長時間に及ぶ相談が増加していることの報告がありました。また、苦情相談の内容としては、無料(体験)商法が増加傾向にあり、多重債務相談に関して失業者や働き盛りの年代が、増加傾向にあるとの報告がありました。

仙台市消費生活基本計画について、各重要課題にそって実施状況、推進局による評価、今後の課題が事務局から説明されました。

次期仙台市消費生活基本計画について、基本的な構成は条例に基づき体系的な構成で策定された現行計画を引き継ぐことが

確認され、計画推進のための施策の変更箇所に関して、「重要課題Ⅰ：消費生活の安全・安心の確保」「重要課題Ⅱ：消費者教育・啓発の推進」「重要課題Ⅲ：消費者被害の防止・救済」「重要課題Ⅳ：消費者の特性に応じた支援」「重要課題Ⅴ：環境に配慮した消費生活の推進」とすることが決まりました。計画期間は、平成23年度から27年度までの5年間となります。

今後のスケジュールについて4回の審議会の実施、10月にパブリックコメントの募集の実施、平成23年3月策定を目指すことの説明がありました。

● 平成 22 年度第 1 回宮城県消費生活審議会報告

8月2日(月)宮城県庁9階第1会議室において、「平成22年度第1回宮城県消費生活審議会」が開催され、12人の委員が出席しました。宮城県生協連から、加藤房子常務理事が委員として参加しています。

小泉保環境生活部長の挨拶の後、議事に入りました。担当者から、宮城県消費者施策推進基本計画の21年度実施状況について、宮城県としての自己評価は、計画で推進する施策の主な取組事項については、概ね計画

通りに実施されたとの報告がありました。

続いて、次期「宮城県消費者施策推進基本計画」の策定について、主要重点推進項目は①市町村消費生活相談体制の強化(新規)②高齢者の被害対策③若者の消費者被害対策④多重債務対策とし、計画期間は平成23年度～27年度までの5年間とすることが確認されました。次期計画策定までのスケジュールとして、3回の審議会開催、11月のパブリックコメントの募集、

平成23年3月策定の提示がありました承されました。

宮城県消費者行政活性化計画の実施状況について、県消費生活センター消費生活相談員を3人増員したこと、多重債務無料相談会を拡充開催したこと、県民向け消費生活講座の充実などを行ったことや、今年度消費生活相談員養成を委託事業とすること、また平成21年度消費生活相談の状況について、消費生活センターが県庁1階になったことにより相談件数が増加したことなどの報告がありました。

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎは、安心して食生活・消費生活をおくれる環境を求めて、食品の安全行政、消費者行政の充実強化を目指し、宮城県内の消費者組織の連携をはかり、消費者運動を促進することを目的として活動します。【構成団体】宮城県生活協同組合連合会、NPO 法人仙台・みやぎ消費者支援ネット、主婦連合会仙台支部、宮城県地域婦人団体連絡協議会、宮城県消費者団体連絡協議会、みやぎ生活協同組合、生活協同組合あいコープみやぎ、(財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

● 食品の安全行政部会で『遺伝子組換え米の栽培実験圃場』見学会報告

遺伝子組換え作物の栽培状況および交雑・混入防止等、どのように栽培実験が行なわれているのか、実際に圃場を見て、その取り組み内容を知る見学会を8月5日(木)に開催しました。消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの構成団体から24人の参加がありました。

当日は、遺伝子組換えイネの栽培実験が行われている大崎市川渡にある東北大学大学院農学研究科附属複合フィールド教育研究センターを訪問しました。大学院生命科学研究科日出間純准教授より、紫外線UV抵抗性・感受性遺伝子組換えイネの実験概要について説明を受けた後、圃場の見学を行い質疑をおこないました。

2009年宮城県において「遺伝

子組換え作物の栽培指針」が策定されましたが、指針にそったものとなっているかどうか、交雑・混入の恐れはないのか、実験の必要性等について意見交換しました。

JA中央会からも遺伝子組換え作物をどう考えるべきか、アドバイザーとして参加いただきました。食品の安全性の確保と遺伝子組換え技術の活用について考える見学会となりました。

午後からは、「JA みどりの」で栽培されている地域循環米と、その堆肥を製作しているみやぎ生協りサイクルセンターの見学を行いました。

みやぎ生協では、店の農産部門から出る野菜くずなどを分別して、リサイクルセンターに送り堆肥に加工しています。この

堆肥を、産直ふるさと米の産地である「JA みどりの」田尻地区に運びさらに、もみがら等を加えて肥料成分を調整して「産直ふるさと米」生産の水田に使用しています。この堆肥を使用した「産直ふるさと米」ひとめぼれを、6月1日からの「環

境月間」に「産直ふるさと米・地域循環米ひとめぼれ」として発売しています。



リサイクルセンターで作られた堆肥を見学



リサイクルセンターの堆肥を使用した水田(産直ふるさと米)の見学



東北大学大学院農学研究科附属複合フィールド教育研究センターの圃場の見学



「地域循環米」
産直ふるさと米
ひとめぼれ

消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動

● 「消費税川柳七夕」を飾りました

「消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城」では、消費税川柳を会員の方々から募集し、毎年『消費税率アップ反対!』の願いを込め、多くの方に広くアピールするために、仙台七夕期間より早い時期に吹流しや七夕飾りを展示しています。

今年は、147首の応募があり、その中から30首を選び、消費税川柳七夕として、一番町四丁目は、三越隣のロッセリア向かいに子竹飾り、ブランドーム一番町には、今年もHMV前に飾りました。

みやぎ生協の家計委員会の方々毎年、消費税川柳七夕の製作を担ってくれています。

8月6日から8日までの七夕期間中、多くの皆様に『消費税率引き上げ反対』の呼びかけをしたことでしょう。



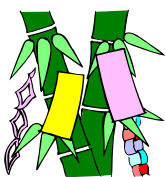
風になびく消費税川柳の小竹飾り



HMV前の消費税川柳の七夕飾り

『消費税川柳』(平成二十二年度)

- ・ 税率を 上げれば暮らしも アップアップ
- ・ 取る側は 分かってねえべ 老後の苦しみ
- ・ 消費税 上げる前に 無駄はぶけ
- ・ 国民に 役立ててますか 消費税
- ・ 本当に 必要なのか 消費税
- ・ 品物で 税率変えてよ 消費税
- ・ おだづなよ 10%は 1割だ
- ・ ひたひたと 生活むしばむ 消費税
- ・ 減税は 企業だけとは 不公平
- ・ 3から5へ 増やして社会は 良くなった?
- ・ 消費税 買わない暮らしに 知恵しほり
- ・ だれのため 払い続ける 消費税
- ・ 消費税 プレは民主のお家芸
- ・ 消費税 大増税は 街こわす
- ・ 消費税 得する人が 値上げ云い
- ・ 財政危機 犯人捜さず 消費税
- ・ 増税派 消費税しか 知らないの
- ・ 還付する!? ならば最初(ハナ)からあげるなヨ!
- ・ 目的は 法人税の 大減税
- ・ 言い訳は いつもせりふ 福祉のため
- ・ 消費税 我が身を削る税いらぬ
- ・ 10パー(%)で 計算しやすく してくれるのね
- ・ 5パーセント 慣れた途端に10%?
- ・ いカン あカン 総理の言う事 わカンない!
- ・ “あめ”のあと、次のごほうび 消費税
- ・ 主人公 企業・米国と カンちがい
- ・ 消費税 覚せい剤と 変わりなし
- ・ 高給な 人々気楽に 増税と
- ・ 税上げて ムダ使い継続 赤字増
- ・ 政治家は 責任取らず 垂れ流し



会員生協だより

みやぎ生協

●「コープ富谷共同購入物流センター」の起工式

8月4日（水）黒川郡富谷町成田において、「コープ富谷共同購入物流センター」の起工式が執り行われました。起工式には若生英俊富谷町長、開発会社である（株）プロロジスのプレジデント兼CEO（最高経営責



任者）、齋藤昭子理事長などが出席し、鍬入れなどの神事が厳かに行われました。

この物流センターは、現在のセットセンターの老朽化に伴い、新たに移転・建設することにしたもので、みやぎ生協のセットセンターや共同購入富谷支部、東北6県の生協をカバーする、サンネット事業連合の冷凍セットセンターの機能なども担う施設になります。

サンネット事業連合の冷

凍セットセンターが稼動することにより、サンネット全体での冷凍品の取扱い品数は現在の220品目から350品目に拡大し、組合員の品揃え充実の要望に応えることが可能になります。

新しいセンターは、敷地面積が約9,016坪、延床面積は5,152坪で鉄骨造、地上2階建の施設で来年9月に稼動する予定です。事業高は、2012年度で約200億円（出荷品の売価合計）を計画しています。

（総務部課長 稲葉勝美）

生協あいコープみやぎ

●LPAの会「くらし見直し講演会 “わが家に仕分け人がやって来た！”」

あいコープみやぎLPAの会では、7月5日（月）いちのせかつみさん（ファイナンシャルプランナー）をお招きして、「わが家に仕分け人がやって来た！」と題して、くらし見直し講演会を、組合員約90人の参加で開催しました。

まず、家計診断には、非の打ちどころがない家計か、本当に苦しい状況の家計の2パターンに分かれるお話があり、詳しい事例について笑いを交えながら説明がありました。家計についてく自分が知らないと感じる

こと><自分と向きあって考えること>の前提を確認しました。

次に、実際の仕分け作業として「今日から家計簿をつけること」で現状分析し、変動費と固定費に分けて見直していくことの説明がありました。変動費については欲しい物と必要な物の振り分けをすること、固定費については、住宅ローンや保険の見直しはタイミングを図るようお話がありました。現状分析をしたうえで、目的を持ってお金を管理していくことの必要性を感じました。



最後に、投資に日本人は向かない説明から「みんながしているから同じに、ではだめ」という話があり、家族の価値観を持って生活していくことの大切さを学びました。

（理事 大洲裕美）

※LPAとは、ライフプランアドバイザーの略

大学生協みやぎインターカレッジコープ

● 組合員交流企画「さくらんぼ狩りツアー」報告

今年で4回目となる「さくらんぼ狩りツアー」を6月26日（土）に、85人の参加で行いました。天童市でさくらんぼ狩りを行い、蔵王温泉で昼食というコースです。



交流企画の様子

毎年、総代さんで実行委員会を作り企画を練っていますが、今年は仙台白百合女子大と仙台高専広瀬キャンパスの総代さんを中心に、実行委員会が出来ました。

実行委員は下見の他、募集ポスターの作成や交流企画（バス車中や食後のゲームなど）の準備運営を行い、ツアー報告まで行います。

組合員中心の企画の良さが伝わるのか、“今年で3年目です！”という参加者もいます。ツ



どのさくらんぼにしようかな

ツアー後のアンケートで「また参加したい」「楽しかった」という声を頂いて、さらに組合員さんに満足して頂ける企画を作って、組合員さん同士の交流の場を広げていきたいです。

（理事 吉田智子）

東北大学生協

● オープンキャンパスの取り組み

東北大生協では、7月28日（火）29日（水）の両日に開催された東北大学オープンキャンパスにおいて、学生委員会を中心に「お話コーナー」を開催しました。

これは、オープンキャンパスに参加した高校生や受験生を対象に、現役大学生である学生委員会のメンバーが自分の受験体験談や大学生活について質問に答えながらお話しをしていくというものです。

高校生は、自分達の知らない大学生活の事や、未体験の大学

受験というものについて知ることができ大変満足していました。学生委員メンバーも、普段話す事がない高校生と話す機会を得て、非常に活気に満ちていました。また、同時にキャンパスを知ることができる景品付きクイズラリーをしてもらったり、学生委員メンバーが執筆した特別冊子「ton-ton」を約3万部配布するなどしました。

最終的にはオープンキャンパスにおける企画に、全体でのべ1,000人が参加し、企画は成功に終わりました。



（学生委員 床次頭輔）

● 「2010 年度宮城県協同組合こんわ会委員総会」報告

7月27日(火)、JAビル宮城6階特別会議室において県生協連、農協中央会、県漁協、県森連、日専連の県内5つの協同組合で構成する宮城県協同組合こんわ会は、「2010年度宮城県協同組合こんわ会委員総会」を開催しました。

委員総会では構成団体の代表者など19人と、宮城県より4人の出席がありました。

宮城県協同組合こんわ会会長の木村春雄農協中央会会長より開会挨拶の後、宮城県農林水産部の伊本廣一次長より来賓のご祝辞をいただきました。

2010年度宮城県協同組合こんわ会委員総会の議案は、第1号議案：2009年度活動報告書および収支決算書の承認について、第2号議案：2010年度活動計画書および収支予算書の設定について、第3号議案：2010年度会費賦課ならびに徴収方法について、第4号議案：役員を選任についてであり、それぞれの議案



佐藤寛産業部長(東北経済産業局)

について事務局より説明があり、全議案に対し満場一致で可決されました。

続いて、各団体からの活動報告があり、みやぎ生協の宮本弘専務理事から「産直40周年」に向けた取組についての紹介がありました。

県漁協の木村稔経営管理委員会会長から、チリ地震津波による被害状況について、牡蠣・海苔・ワカメ・ホタテなどの被害が40億円であることや、復旧活動が現在も続いていること、義援金提供に対する御礼などの報告がありました。

県森連の佐藤豊彦代表理事長から、間伐材を利用した取組や県産材利用に向けた取組として、八木山動物公園600坪に県産材を利用しており、その施工を県森連が行ったことの報告がありました。

日専連の小野寺基純専務理事から、「日専連創立75周年」を向かえたことを契機に、商店街活性化を目指し、個店ではできないことを日専連として実施していくこと、県内のいいものを発掘して、県産県消を全国にPRしていく方針であることが報告されました。



最後に、農協中央会の早坂彰一営農政部長から、「第36回JA宮城県大会」でのスローガンの紹介や環境保全米の取組、米戸別所得補償モデル事業の進捗状況、過剰米問題についての報告がありました。

閉会挨拶を、宮城県生協連の齋藤昭子会長理事が行い委員総会は閉会しました。

その後、東北経済産業局の佐藤寛産業部長を講師に、「活力ある暮らし・まちづくりと農商工連携」と題して講演があり、東北地域経済の現状分析、「農商工等連携促進法」の認定を受けた宮城県内の事例紹介、「中心市街地活性化法」の概要、「地域商店街活性化法」などの紹介がありました。地域経済が低迷している中で、発展の方向性を探るためには、行政などの協力や情報収集をしていくことの必要性について学習しました。

環境のとりくみ

生協の環境活動は、生協組合員の活動や事業における取組みを通して、環境負荷の軽減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献していきます。組合員のライフスタイルの見直し、生産から流通・消費・廃棄までの製品のライフスタイルの各段階における環境負荷の低減等をすすめます。

みやぎ生協

● 夏休み親子企画「さかなの森」に行ってみよう ～森と水辺の観察会～

みやぎ生協は“こ～ぶの森”への植林などをとおして、森づくりの活動をすすめています。また県内の水環境を調べる活動として「水辺の観察と水質測定」を、19年間継続して行っています。

そこで、森と水に関わるそれ



サンショウウオ見つけたヨ

ぞれの取り組みから見えてきたことを関連づけ、森と水辺のつながりを実感できる機会として、夏休みの親子を対象にした観察会を7月31日（土）に開催しました。

当日は33人（中学生6人、小学生9人、未就学児2人含む）が参加し、宮城県内水面水産試験場の見学、升沢遊歩道のブナ原生林での自然観察、近くの溪流で「水辺の観察と水質測定」の実習と水辺の生き物探しを行いました。

ブナの原生林の中はなぜ涼しいの？川の水はどこから流れてくるのだろう？などについて体験を通して知ることができまし



ブナの大木に触ってみよう

た。冷たい溪流の水に足を浸しながら、サンショウウオなどの水生生物を観察することもできました。ブナの森から流れる豊かな水が、多様な生き物を育てていることを実感した観察会でした。

（生活文化部 昆野加代子）

お知らせ

わたしたちの暮らしと「生物多様性」

2010年は国連「国際生物多様性年」です。また10月に名古屋で「生物多様性の第10締約国会議（COP10）」が、190余の国々が集まって開催されます。そこで今年のキーワード「生物多様性」についての理解を深める学習会を開催します。ご参加をお待ちしています。

と き 2010年9月15日（水）10時30分～12時30分
と ころ エル・パーク仙台スタジオホール（三越定禅寺通館6階）
お 話 岩渕 成紀さん [NPO法人 田んぼ理事長]
参加費 無料 ※託児あり／要予約（2歳以上、1人300円）
定 員 190人（定員になり次第締切り）

- ◆ 主催／みやぎ生活協同組合
- ◆ 後援／宮城県生活協同組合連合会
（財）みやぎ・環境と暮らし・ネットワーク（MELON）

パートナーシップ事業



この活動は、COP10パートナーシップ事業に登録し、生物多様性の保全とCOP10開催を盛り上げていきます。



【問合せ・連絡先】 みやぎ生協生活文化部
TEL:022-218-3880 FAX:022-218-3663

平和のとりくみ

わたくしたちは、「平和とよりよき生活のために」という生協のスローガンに基づく取り組みを行います。唯一の被爆国の国民として、核兵器廃絶を訴えるとともに、戦争放棄をうたった憲法 9 条を含めた日本国憲法のよさと大事さを学び、話し合い、多くの人々が平和を守るネットワークへ参加する活動を広げていきます。

● 『被爆ピアノ 響け！平和の音色 チャリティーコンサート in 仙台・尚綱学院』開催報告

8 月 22 日（日）尚綱学院中学・高等学校礼拝堂において、『被爆ピアノ 響け！平和の音色 チャリティーコンサート in 仙台・尚綱学院』を開催し、450 人の参加者がありました。

被爆ピアノコンサートとは、1945 年 8 月 6 日に広島市で被爆したピアノを演奏するもので、奏でるメロディーを聴きながら核兵器廃絶を考えるコンサートです。被爆ピアノは現在世界で 9 台確認されていますが、その内の 1 台を仙台市泉区在住の松葉曜子さんが所有しており、そのピアノをお借りして実施しま



小川祐弥さんによるピアノ演奏



ピアノに残る被爆で受けた傷

した。

国連平和デー被爆ピアノ平和コンサート実行委員会は、被爆 65 周年にあたる 2010 年 9 月、国連本部のあるニューヨークでの「被爆ピアノ平和コンサート」実現を目指しています。このコンサートには、ピアノ輸送費・出演者の渡航費等、多額の費用が必要となる為、チャリティーコンサートの収益と、志をひとつにして下さる方々の募金や、ご支援下さる企業・団体からの協賛金によって経費とする予定です。

日本各地で「被爆ピアノ平和コンサート」開催が計画され、これを受け、宮城県生協連、みやぎ生協、みやぎ憲法九条の会、尚綱学院中学・高等学校の先生方が集まり、仙台実行委員会を立ち上げ、国連本部でのコンサートの実現のためのチャリティーコンサートを企画・開催しました。

はじめに、仙台実行委員会を代表して、宮城県生協連の齋藤昭子会長理事が開会挨拶をしました。続いて、尚綱学院中学・高等学校音楽科教諭でピアニストの小川祐弥さんのピアノ演奏



高橋絵里さん、尚綱学院中学・高等学校合唱団、尚綱学院音楽教室少年少女合唱団による合唱

がありました。65 年前に原子爆弾に抛って傷ついたと思えない、すばらしい音色でした。その後、宮城県原爆被害者の会事務局長の木村緋紗子さんから、8 歳の時の広島での被爆体験のお話があり、「被爆ピアノを通じて、宮城県内で核廃絶の動きを強めてほしい。」とお話されました。後半は、高橋絵里さん、尚綱学院中学・高等学校合唱団、尚綱学院音楽教室少年少女合唱団による演奏と合唱がありました。

コンサート終了後、会場出口の募金箱を持つ子どもたちに、多くの方々が募金してくださいました。募金は目標金額をはるかに上回る 415,991 円となりました。この募金は全額、ニューヨークでの被爆ピアノコンサート費用になります。皆様のご支援・ご協力に感謝いたします。

地産地消のとりくみ

地産地消とは、もともと地域で生産されたものをその地域で消費することを意味する言葉です。さらに、消費者の食料に対する安全・安心志向の高まりなどを背景に、地域の消費者ニーズに即応した生産と、生産された農林水産物を地域で消費しようとする活動を通じて、生産者と消費者が結びつく取り組みであり、これにより、消費者と生産者とは『顔が見え、話ができる』関係で、地域の農林水産物・食品を購入する機会を提供するとともに、地域の農林水産業と関連産業の活性化を図っていくものです。

● 地産地消商品でカレーを食べよう！

7月17日（土）みやぎ生協幸町店において、ハウス食品とみやぎ生協の協賛による「地産地消商品でカレーを食べよう！」が開催され、約200人の参加者がありました。

ハウス食品株式会社は、宮城県などと連携し、「カレー」を通じた地産地消、食料自給率アップのための活動「カレーアクションみやぎ」を展開しています。今年も「カレーアクションみやぎ2010」として様々な取組を展開しています。その一環として、年間で最もカレーの販売指数が

高まる時期に合わせて、県産食材を使ったカレーの試食会などを開催しました。

「みやぎ食料自給率向上クラブ」の会員であるみやぎ生協も、「カレー」を通して、新鮮で安全、おいしい宮城の食材の消費拡大をすすめるため、食材として、産直みちのく豚（宮城県産）や県産パプリカなどを提供しました。

はじめに、みやぎ生協の宮本弘専務理事より開会挨拶がありました。続いて、ハウス食品仙台支店の中村誠支店長より、挨拶と併せて今回の企画発表があり、7月1日から8月31日まで、県内の流通企業各社とも連携しながら、カレーを通して、宮城県の食材を多くの消費者へPRし、地産地消と食料自給率の向上を図っていくことの報告がありました。ご来賓として、宮城県から三浦秀一副知事が挨拶され、村井知事の



三浦秀一副知事のごあいさつ

アイディアをもとに作成した『宮城県知事おすすめカレーレシピ』の紹介がありました。

その後、県産食材を使用したカレー（パプリカとみちのく豚とみやぎの環境保全米のカレー）の試食が振舞われました。みやぎのライシーレディーの長沼美咲さんから、「みやぎの環境保全米」についてのPRや、司会役の宮城県生協連の加藤房子常務理事から、産直みちのく豚の説明がありました。

最後に、むすび丸係長と子どもたちとの握手会や、副知事やライシーレディーからの素敵なお土産プレゼント会などが行われ、外の暑ささながらの熱気で盛り上がりました。



「パプリカとポークと環境保全米のカレー」



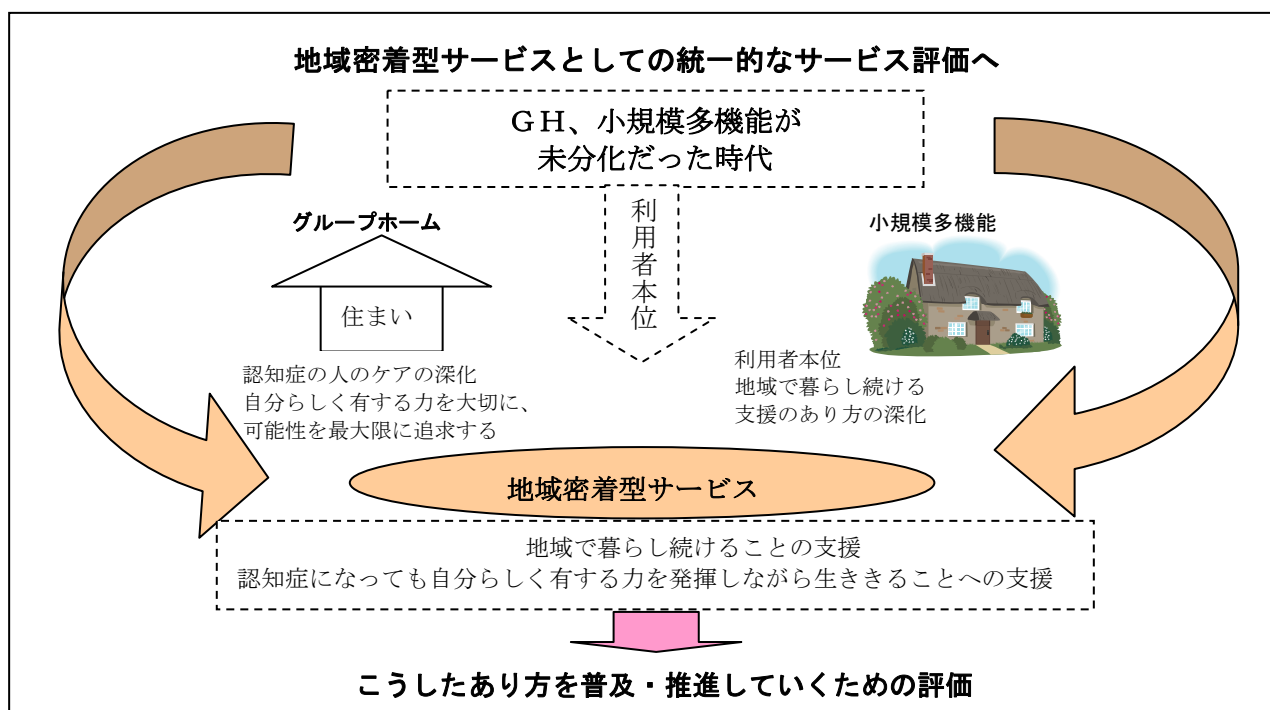
ハウス食品より150食分のカレーをおふるまい

NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。介護が必要な人にとって、体のケアだけではなく、心のケアも念頭においた利用者本位のケアプランが作成され、安心して介護サービスを受けられることが最も大切です。私たちは、知恵と力を合わせ、良質な介護サービス提供と健全な事業運営のためにいっそうの研修にはげむとともに情報を共有しネットワークをひろげ、もって要介護者と介護者の人権擁護(尊重)、地域住民の福祉向上に資することを NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ(介護ネットみやぎ)の目的とします。

● 地域密着型サービス外部評価機関に宮城県から選定

介護ネットみやぎは、7月1日(木)宮城県から「地域密着型サービス外部評価」の評価機関として選定されました。評価審査委員5人、評価委員5人、評価調査員16人という体制でこれまでに蓄積したノウハウを活かし、公正中立な立場できめ細かな評価を行なっていきます。



介護ネットみやぎは、小規模多機能型居宅介護(介護予防を含む)及び認知症対応型共同生活介護(介護予防を含む)の情報の公表の調査機関であり、外部評価の評価機関として選定されたことから、情報の公表と外部評価の同一日実施をおこなうことが可能になりました。

<「介護サービス情報の公表」と「地域密着型サービスの外部評価」の違い>

	介護サービス情報の公表	地域密着型サービスの外部評価
根拠法令	介護保険法第115条の35	基準省令第72条第2項、第97条第7項
目的	利用者による事業者の選択を支援	事業者が行うサービスの質の向上、改善
制度の内容	客観的な事実の報告及び報告内容の確認(調査)並びに公表	評価基準に基づく第三者による評価及び公表
対象サービス	介護サービス(厚生労働省令で規定)	小規模多機能型居宅介護及びグループホーム
実施主体	県(指定情報公表センター)	県
調査(評価)機関の割振	県が指定	事業者が選定

(財) 日本ユニセフ協会宮城県支部の活動

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。個人、団体・企業、学校などからの募金と世界各国の政府からの拠出金によって、150以上の国と地域で教育、保健、水と衛生、栄養、保護等の支援活動を行っています。日本ユニセフ協会宮城県支部は1995年に設立され、会員数は一般・学生233人、団体4です。

● 夏休みユニセフ教室『親子で参加する“外国コイン”仕分け活動』開催報告

『外国コイン』は日本国内では、お金として使うことはできません。その外国コインを有効に利用するために、「ユニセフ外国コイン募金」が1992年にスタートしました。日本ユニセフ協会(東京)は、民間企業5社の協力のもと、集まった外国の通貨を海外に輸送し、ユニセフの活動資金として世界の子どもたちのために役立てています。宮城県では、1998年3月に仙台空

港国際線税関検査場に「ユニセフ外国コイン募金箱」を設置しました。国際線を降りたところにありますので、国際線をご利用になるときに注意して見てください。

宮城県支部では、毎年「夏休みユニセフ教室」として、外国コインを国別・金種別に仕分けする活動を行っています。今年で13回目になります。7月20日に空港の募金箱からコインと紙幣を回収し、7月31日(土)、みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、小学生親子、中学生、高校生、ユニセフボランティア等、総勢70人が参加して仕分けしました。

「外国コインの仕分け」の前には、ビデオによる「開発



コイン仕分けの様子

途上国の子どもたちの暮らし」を学習し、コイン仕分けのボランティア活動が役立つことを実際に体験しました。

集計・換算の結果は330,191円(昨年は317,491円)で、アメリカ・中国・韓国など27ヶ国のコインと紙幣がありました。

(事務局長 五十嵐栄子)



仙台空港より外国コインを回収してきました

参加者の感想



- ♥ 初めて見るコインばかりで、まるで海外旅行でもしている気分になりました。それぞれの国には、それぞれの暮らしがあるんですね。
- ♥ ビデオを見て、助けられる命は一刻も早く救ってあげたいと思いました。
- ♥ ボランティア活動に自主的に参加したのは初めてだったため、とても緊張しました。
- ♥ 私一人の力はとても小さいけれど、少しでも世界の子どもたちの力になれたらうれしいと思いました。
- ♥ 日本の子どもたちと同じようにみんなが学校へ行けるように、募金をしたいと思いました。

環境NGO MELONの活動

(財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(Miyagi Environment Life Out-reach Network) MELONは、みやぎ生協・JA宮城中央会・県漁協・県森連・日専連の県内で活動する協同組合が中心となって設立され、1995年12月に財団法人化された環境NGO(非政府組織)です。MELONは、緑と水と食を通して地球と地球環境保全の活動を行なっています。会員数は個人919、法人100団体、任意団体15団体です。合計1,034です。(8/2現在)

● 「第3回環境市民講座 田んぼのがっこう」開催報告

7月4日(日)大崎市田尻の佐々木陽悦さん(宮城県認定エコファーマー、MELON理事)の田んぼで、毎年恒例となっている「田んぼのがっこう」を開催しました。これは有機農業を営む佐々木さんの田んぼで生き



生きもの観察の様子

物観察をし、豊かな生態系を感じてもらおうイベントです。今回は参加希望者が殺到して48人の参加となりました。

佐々木さんから田んぼの生き物について説明していただいた後、田んぼに移動し、ヤゴやカエル、メダカなどたくさんの生き物を発見し観察しました。

最初はおっかなびっくりだった子どもたちも、慣れてくると裸足で田んぼに入り、夢中で生き物を探していました。お弁当の時間には、夏野菜の味噌汁と規格外のトマトをご提供いただきました。トマトは規格外と言っても少し形が悪かったりする



「おっかなびっくりなトマトだわ」

だけで、みずみずしく本当においしかったです。スーパーに並ぶ野菜が、いかにきれいなものだけ厳選されているのかがよくわかったと思います。

子どもたちは暑い中でも、生き物に触れたり、トマトを食べたり本当に楽しそうで、アンケートでも「貴重な体験になりました。」といった感想が多く寄せられました。

● 「めざせ☆ベガルタ仙台・エコサポーター!!」開催報告

7月27日(火)今年で7回目となる「めざせ☆ベガルタ仙台・エコサポーター!!」を株式会社ベガルタ仙台と共催で行いました。これは20組の親子を募集し、ユアテックスタジアム仙台のエコステーションで、ごみ分別体験やごみについての勉強をもらおうイベントです。

今年の講座には、スーパーなどのプラスチックトレイを作っ

ている株式会社エフピコ様から、トレイのリサイクルについてお話いただきました。

その後、子どもたちはチアリーダーとともに、環境メッセージの入った横断幕を持ってピッチを周回し、エコステーションでの活動ではサポーターに元気にごみ分別を呼びかけていました。今年は猛暑の中での活動となりましたが、子どもたちには、



スタジアムで行われている環境活動について、知ってもらえる良い機会になったと思います。

(事務局統括 小林幸司)

行事予定

学習会

「庭から始まる食育」

宮城県生協連では、「生協の家計簿」使った家計調査活動を行っています。

子育て中のお母さんたちに多く参加していただけるよう、「食育」の観点から節約の知識も得られる講演と、生協の家計調査や「生協の家計簿」の紹介など、くらしと家計簿の関わりに興味を持っていただく機会とし、家計モニター拡大を目指します。

【主催・お問合せ】

宮城県生協連 担当/加藤房子

TEL 022-276-5162 FAX 022-276-5160

[日時] 2010年 **10**月**4**日 [月] 10:30~12:30

[場所] みやぎ生協文化会館ウイズ

[定員] 100人 [参加費] 無料

[締切] 9月20日(月)

「庭から始まる食育」

地球にやさしい&家計にやさしいくらし方

～ベジタブルガーデンのすすめ～



講師/石館 志保子さん

野菜ソムリエ
薬膳アドバイザー師範
食育コンダクター

憲法9条を守り生かす

「宮城のつどい 2010」

—井上ひさしさんを偲んで—

[日時] 2010年 **10**月**30**日 [土]

13:30~16:00 (13:00開場)

[場所] イズミティ21大ホール

[定員] 1,400人 [参加費] 無料

■主催 みやぎ憲法九条の会

■共催 宮城県内「九条の会」

【お問合せ】

みやぎ憲法九条の会

TEL:022-728-8812 FAX:022-276-5160

第1部

合唱

出演:「おじいちゃんから孫たちへ」をうたう合唱団

記念講演

「平和と平等を あきらめない」

～安心して生きるために～

講師/斎藤 貴男さん

フリーランスジャーナリスト



第2部

ミニコンサート

出演:仙台ガブリエリ・プラス

